

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名:H24-B14-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を本書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
142	34.93	34.93	-	-	-	34.93	34.93	34.93m: 割れ目沿いに岩質変化する。岩片にはマンガンが付着する。割れ目のかみ合せ悪い。	34.93m: 割れ目沿いに岩質変化する。岩片にはマンガンが付着する。割れ目のかみ合せ悪い。	-	
143	34.93	35.00	34.93	35.00	(コアの形状欄)IVランク	34.93	35.00	(コアの形状欄)IVランク	(コアの形状欄)IVランク	-	
144	35.00	35.14	35.00	35.14	(コアの硬さ欄)Cランク	35.00	35.14	(コアの硬さ欄)Bランク	(コアの硬さ欄)Bランク	-	
145	35.14	35.74	35.14	35.74	割れ目が不規則網状に発達し、風化・変質により岩質が劣化する。全体に黄色帯びる。	35.14	35.74	割れ目が不規則網状に発達し、風化・変質により岩質が劣化する。全体に黄色味を帯びる。	35.14~35.74m: 割れ目が不規則網状に発達し、風化・変質により岩質が劣化する。全体に黄色味を帯びる。	-	
146	36.20	36.60	36.20	36.60	35.20~35.50m間は、不規則に劣化部が分布し、コアは砂塵~薄片を呈する。	36.20	36.60	35.20~35.50m: 不規則に劣化部が分布し、コアは砂塵~薄片を呈する。	35.20~35.50m: 不規則に劣化部が分布し、コアは砂塵~薄片を呈する。	-	
147	35.59	35.59	35.59	35.59	巾1~3mm、 $\angle 50^\circ$ 、黄褐~黄白色粘土混じり砂。下端側にマンガン汚染が目立つ。	35.59	35.59	幅1~3mm、 $\angle 50^\circ$ 、黄褐~黄灰色粘土混じり砂を挟む。下端側にマンガン汚染が目立つ。	35.59m: 傾斜50°で幅1~3mmの黄褐~黄灰色粘土混じり砂を挟む。下端側にマンガン汚染が目立つ。	-	
148	35.64	35.91	-	-	-	35.64	35.91	35.64~35.91m: 密着した網状割れ目に沿って酸化汚染が広がる。	35.64~35.91m: 密着した網状割れ目に沿って酸化汚染が広がる。	-	
149	35.88	36.09	35.88	36.09	35.88~36.09m: 密着割れ目沿いの酸化汚染は認められるが、コアはやや硬質短柱状を呈する。	35.88	36.09	35.88~36.09m: 密着割れ目沿いの酸化汚染は認められる。	35.88~36.09m: 密着割れ目沿いの酸化汚染が認められる。	*記事欄以外から読み取れる硬さやコアの形状の情報は記載しない	
150	36.00	37.52	36.00	37.52	(割れ目状態欄)Bランク	36.00	37.52	(割れ目状態欄)Bランク	(割れ目状態欄)Bランク	-	
151	36.09	36.43	36.09	36.43	$\angle 40\sim 50^\circ$ の割れ目が9~10cm間隔で発達。コアは硬質短柱状を呈する。	36.09	36.43	$\angle 40\sim 50^\circ$ の割れ目が9~10cm間隔で発達。コアはやや硬質短柱状を呈する。	36.09~36.43m: 傾斜40~50°の割れ目が9~10cm間隔で発達する。	*記事欄以外から読み取れる硬さやコアの形状の情報は記載しない	
152	36.43	37.52	36.43	37.52	$\angle 50^\circ$ 程度の割れ目の他、不規則に割れ目が分布し、コアは塵~薄片を呈する。割れ目面は黄褐色化する。岩片はやや硬質であるが、コア採取時に軟質細粒物を流失している。	36.43	37.52	$\angle 50^\circ$ 程度の割れ目の他、不規則に割れ目が分布し、コアは塵~薄片を呈する。割れ目面は黄褐色化する。岩片はやや硬質であるが、コア採取時に軟質細粒物を流失している。	36.43~37.52m: 傾斜50°程度の割れ目の他、不規則に割れ目が分布し、塵~薄片を呈する。割れ目面は黄褐色化する。コア採取時に軟質細粒物を流失している。	-	
153	36.82	37.05	36.82	37.05	(コアの形状欄)Vランク	36.82	37.05	(コアの形状欄)Vランク	(コアの形状欄)Vランク	-	
154	37.20	37.20	37.20	37.20	岩片に灰白色シルトが付着する。	37.20	37.20	岩片に灰白色シルトが付着する。	37.20m: 岩片に灰白色シルトが付着する。	-	
155	37.32	37.52	37.32	37.52	(コアの形状欄)IVランク	37.32	37.52	(コアの形状欄)Vランク	(コアの形状欄)Vランク	-	
156	37.52	37.89	37.52	37.89	割れ目間の岩質劣化が進行し、コアは塵状~薄片状を呈する。マサ状部では割れ目、岩組織やや不明瞭となる。	37.52	37.89	割れ目間の岩質劣化が進行し、コアは塵状~薄片状を呈する。マサ状部では割れ目、岩組織やや不明瞭となる。	37.52~37.89m: 割れ目間の岩質劣化が進行し、コアは塵状~薄片状を呈する。マサ状部では割れ目や原岩組織がやや不明瞭となる。	-	
157	37.65	37.78	37.65	37.78	(コアの硬さ欄)Dランク	37.65	37.78	(コアの硬さ欄)Cランク	(コアの硬さ欄)Cランク	-	
158	37.89	38.10	37.89	38.10	割れ目が巾1cm間隔網状に発達し、割れ目沿いに酸化汚染が広がる。割れ目の多くは密着するが、ハンマーの軽打で分離する。	37.89	38.10	割れ目が幅1cm間隔で網状に発達し、割れ目沿いに酸化汚染が広がる。割れ目の多くは密着するが、ハンマーの軽打で分離する。	37.89~38.10m: 割れ目が幅1cm間隔で網状に発達し、割れ目沿いに酸化汚染が広がる。割れ目の多くは密着するが、ハンマーの軽打で分離する。	-	
159	38.00	39.00	38.00	39.00	(最大コア長欄)0	38.00	39.00	(最大コア長欄)4	(最大コア長欄)4	-	
160	38.10	38.27	38.10	38.27	破砕帯: 凝結り砂状破砕部(H)	38.10	38.27	破砕部: 粘土混じり塵状部(I)	●38.10~38.27m: 破砕部 粘土混じり塵状部(H) 上端40° 下端50°でともに差打って連続、径2~10mmの岩片主体で、下側ほどシルト~粘土分を多く含む。38.10~38.19mは灰白色、38.19~38.27mは淡黄灰色を呈する。幅110mm程度、38.10mにはフィルム状の暗緑灰色の細粒部を伴う。	*硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や組織部の連続性、直線性、異新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。	
161	38.10	38.27	38.10	38.27	破砕帯(H)、上端40°(主せん断面)、下端50°、巾110mm程度、シルト・細粒の混じる暗緑砂を主とする。下側ほどシルト~粘土分を多く含む。38.10~38.19m間は灰白色、38.19~38.27mは淡黄灰色を呈する。	38.10	38.27	破砕帯(H)、上端40°(最新活動面)、下端50°でともに差打って連続、幅110mm程度、径2~10mmの岩片主体、シルト・細粒の混じる暗緑砂を主とする。下側ほどシルト~粘土分を多く含む。38.10~38.27mは淡黄灰色を呈する。軟質、含まれる細粒部は局所的に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。38.10mにはフィルム状の暗緑灰色の細粒部を伴う。	38.10	38.27	-
162	38.27	38.67	38.27	38.67	微細に網状割れ目が発達し、割れ目に沿って酸化・マンガン汚染が広がる。	38.27	38.67	微細に網目状割れ目が発達し、割れ目に沿って酸化・マンガン汚染が広がる。	38.27~38.67m: 微細に網目状割れ目が発達し、割れ目沿いに酸化・マンガン汚染が広がる。	-	
163	38.67	39.21	38.67	39.21	全体に割れ目、岩組織やや不明瞭で、白色、淡黄色粘土が不規則に分布する。全体に軟質で針貫入可能である。(一部硬質残存)。カクレーサイト種の岩相を呈する。	38.67	39.21	全体に割れ目、原岩組織やや不明瞭であるが、割れ目沿いは、白色、淡黄灰色粘土が不規則に分布する。全体に軟質で針貫入可能である。(一部硬質残存)。カクレーサイト種の岩相を呈する。	38.67~39.21m: 全体に割れ目や原岩組織がやや不明瞭であるが、割れ目沿いは、白色、淡黄灰色粘土が不規則に分布する。全体に軟質で針貫入可能であるが、一部に硬質残存を残す。	-	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名:H24-B14-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
164	39.00	39.21	(割れ目状懸濁)0ランク	39.00	39.21	(割れ目状懸濁)0ランク	39.00	39.21	(割れ目状懸濁)0ランク	-
165	39.21	39.35	(変質層)2ランク	39.21	39.35	(変質層)3ランク	39.21	39.35	(変質層)3ランク	-
166	39.21	41.29	△30~50°の割れ目と不規則な割れ目が発達する。割れ目によって変質帯化し、コアは破片状を主とし、一部に硬質部を塊状に残す。割れ目の多くにフィルム状の白色~黄褐色シルトを挟んでいる。	39.21	41.29	△30~50°の割れ目と不規則な割れ目が発達する。割れ目によって変質帯化し、コアは岩片状を主とし、一部にやや硬質部を塊状に残す。割れ目の多くにフィルム状の白色~黄褐色シルトを挟んでいる。	39.21	41.29	39.21~41.29m:傾斜30~50°の割れ目と不規則な割れ目が発達する。割れ目によって変質帯化し、岩片状を主とし、一部にやや硬質部を塊状に残す。割れ目の多くにフィルム状の白色~黄褐色シルトを挟んでいる。	-
167	39.21	40.13	割れ目面の多くは黄褐色化する。	39.21	40.13	割れ目面の多くは黄褐色化する。	39.21	40.13	39.21~40.13m:割れ目面の多くは黄褐色化する。	-
168	40.25	40.31	変質帯、上端△40、下端△50°で斜交する。灰白色粘土の混じる石英粒の粗砂~細砂からなる(粘土質砂状)。上下位のコアは巾10~20mmオリブ灰色を呈する。	40.25	40.31	変質帯、上端△40、下端△50°で斜交する。灰白色粘土の混じる石英粒の粗砂~細砂からなる(粘土質砂状)。上下位のコアは巾10~20mmでオリブ灰色を呈する。	40.25	40.31	40.25~40.31m:変質帯、上端40°、下端50°で斜交する。石英粒の粗砂~細砂を混じり、灰白色粘土質砂状を呈する。上下位のコアは幅10~20mmでオリブ灰色を呈する。	-
169	40.35	41.29	(変質層)2ランク	40.35	41.29	(変質層)3ランク	40.35	41.29	(変質層)3ランク	-
170	41.29	42.13	上下位と比べて風化・変質の程度弱く、コア表面滑らか。△30~50°の割れ目が1~10cm間隔で発達し、コアは片~短柱状を呈する。	41.29	42.13	上下位と比べて風化・変質の程度弱く、コア表面滑らか。△30~50°の割れ目が1~10cm間隔で発達し、コアは細片~短柱状を呈する。	41.29	42.13	41.29~42.13m:上下位と比べて風化・変質の程度が弱く、コア表面が滑らかである。傾斜30~50°の割れ目が1~10cm間隔で発達し、細片~短柱状を呈する。	-
171	41.65	41.74	(コアの形状欄)IVランク	41.65	41.74	(コアの形状欄)Vランク	41.65	41.74	(コアの形状欄)Vランク	-
172	41.65	41.74	割れ目密集し、コアはやや脆弱となる。	-	-	-	41.65	41.74	41.65~41.74m:割れ目が密集し、コアはやや脆弱となる。	-
173	41.74	42.27	(割れ目状懸濁)0ランク	41.74	42.27	(割れ目状懸濁)0ランク	41.74	42.27	(割れ目状懸濁)0ランク	-
174	42.13	42.37	(風化層)3ランク	42.13	42.37	(風化層)4ランク	42.13	42.37	(風化層)4ランク	-
175	42.27	42.71	(色調欄)7.5YR7/1 明褐灰	42.27	42.71	(色調欄)7.5YR5/3 にぶい褐	42.27	42.71	(色調欄)にぶい褐	-
176	42.13	42.71	風化・変質の影響を強く受け、コアは軟質となる。特に、42.37~42.47m間は上下端△46°の割れ目で壊され、岩組織、割れ目消失する(均様を呈する)。	42.13	42.71	風化・変質の影響を強く受け、コアは軟質となる。特に、42.37~42.47m間は上下端△46°の割れ目で壊され、岩組織、割れ目消失する(均様を呈する)。含まれる硬い定向配列は見られない。	42.13	42.71	42.13~42.71m:風化・変質の影響を強く受け、コアは軟質となる。特に、42.37~42.47m間は上下端傾斜46°の割れ目で壊され、原岩組織や割れ目が消失する。含まれる硬い定向配列は見られない。	-
177	42.71	43.19	(コアの形状欄)IVランク	42.71	43.19	(コアの形状欄)Vランク	42.71	43.19	(コアの形状欄)Vランク	-
178	42.71	43.51	片~柱状コアを呈し、やや軟質で、ハンマー打診で鈍い金属音を発する。	42.71	43.51	破片~柱状コアを呈し、やや硬質~やや軟質で、ハンマー打診で鈍い金属音を発する。	-	-	-	記事欄以外から読み取れる硬さやコアの形状の情報は記載しない
179	43.00	44.00	(ROD欄)13 (最大コア長欄)13	43.00	44.00	(ROD欄)0 (最大コア長欄)4	43.00	44.00	(ROD欄)0 (最大コア長欄)4	-
180	42.71	43.00	(色調欄)7.5YR7/1 明褐灰	42.71	43.00	(色調欄)10YR6/2 灰黄褐	42.71	43.00	(色調欄)灰黄褐	-
181	43.00	43.51	43.00~43.51m間では、不規則に岩芯まで風化・変質が進行し、コアは褐灰~オリブ灰色を帯びる。	-	-	-	43.00	43.51	43.00~43.51m:不規則に岩芯まで風化・変質が進行し、コアは褐灰~オリブ灰色を帯びる。	-
182	43.19	43.51	(コアの形状欄)IIIランク	43.19	43.51	(コアの形状欄)IVランク	43.19	43.51	(コアの形状欄)IVランク	-
183	43.51	43.81	風化・変質の影響を強く受け、一部に硬さの相当の破片を残すが、多くは針貫入可能である。上端(△50°)には巾8~10mm砂混じりシルトが分布する。	43.51	43.81	風化・変質の影響を強く受け、一部に硬さの相当の破片を残すが、多くは針貫入可能である。上端(△50°)には巾8~10mmで明赤灰色の砂混じりシルトが分布する。	43.51	43.81	43.51~43.81m:強く風化・変質し、一部に硬さの相当の破片を残すが、多くは針貫入可能である。上端には傾斜50°で幅8~10mmの明赤灰色の砂混じりシルトが分布する。	-
184	43.51	43.81	(色調欄)10YR6/2 灰黄褐	43.51	44.08	(色調欄)7.5YR5/3 にぶい褐	43.51	44.08	(色調欄)にぶい褐	-
185	43.51	43.81	(割れ目状懸濁)0ランク	43.51	43.81	(割れ目状懸濁)0ランク	43.51	43.81	(割れ目状懸濁)0ランク	-
186	43.81	44.08	上位と比べて風化・変質の程度は弱いが、△80°以上の割れ目によって土砂化するほか、傾斜に割れ目発達し、コアは脆弱である。	-	-	-	43.81	44.08	43.81~44.08m:上位と比べて風化・変質の程度は弱いが、傾斜80°以上の割れ目によって土砂化するほか、傾斜に割れ目が発達し、コアは脆弱である。	-
187	44.00	45.00	(ROD欄)16 (最大コア長欄)16	44.00	45.00	(ROD欄)0 (最大コア長欄)9	44.00	45.00	(ROD欄)0 (最大コア長欄)9	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名:H24-B14-2

記事	コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		記事	適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点)	
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度			記事
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
188	44.08	45.25	∠15°程度の割れ目が2~3cm間隔で発達するほか、∠80°以上の割れ目が分布し、コアは片状を呈する。割れ目沿いに多少岩質劣化するが、岩片は硬質である。下部は∠52°の割れ目まで下位と成される。割れ目には幅4mm砂・細塵混じり粘土が挟在し、周囲のコアには白雲母が散在する。	∠15°程度の割れ目が2~3cm間隔で発達するほか、∠80°以上の割れ目が分布し、コアは片状を呈する。割れ目沿いに多少岩質劣化するが、岩片は硬質である。下部は∠52°の割れ目まで下位と成される。割れ目には幅4mmで明褐色の砂・細塵混じり粘土が挟在し、周囲のコアには白雲母が散在する。	44.08	44.25	44.08	44.25	44.08~44.25m:傾斜10°程度の割れ目が2~3cm間隔で発達するほか、傾斜80°以上の割れ目が分布し、細片状を呈する。割れ目沿いに多少岩質劣化するが、岩片は硬質である。下部の傾斜52°の割れ目には幅4mmで明褐色の砂・細塵混じり粘土を挟み、周囲には白雲母が散在する。
189	44.25	44.63	(割れ目状態欄)Ⅱランク (コアの形状欄)Ⅲランク	(割れ目状態欄)Ⅲランク (コアの形状欄)Ⅳランク	44.25	44.63	44.25	44.63	(割れ目状態欄)Ⅲランク (コアの形状欄)Ⅳランク
190	43.25	43.63	硬質柱状コア。	やや硬質な短柱状コア。	44.25	44.63	-	-	-
191	44.63	45.20	割れ目沿いの風化・変質が進行し、コアは種~片状を呈する。岩片は硬質なものが多いが、一部は指圧で崩せるほど軟質なものもある。	割れ目沿いの風化・変質が進行し、コアは種~細片状を呈する。岩片はやや硬質なものが多いが、一部は指圧で崩せるほど軟質なものもある。	44.63	45.20	44.63	45.20	44.63~45.20m:割れ目沿いの風化・変質が進行し、種~細片状を呈する。岩片はやや硬質なものが多いが、一部は指圧で崩せるほど軟質なものもある。
192	45.00	46.00	(RQD欄)0 (最大コア長欄)5	(RQD欄)12 (最大コア長欄)12	45.00	46.00	45.00	46.00	(RQD欄)12 (最大コア長欄)12
193	45.00	45.20	D級岩盤。	D級岩盤。	45.00	45.20	-	-	-
194	45.00	45.20	風化・変質を強く受け、割れ目および原岩組織の一部が不明瞭となる。	風化・変質を強く受け、割れ目および原岩組織の一部が不明瞭となる。	45.00	45.20	45.00	45.20	45.00~45.20m:風化・変質を強く受け、割れ目や原岩組織の一部が不明瞭となる。
195	46.20	46.76	(コアの形状欄)Ⅲランク	(コアの形状欄)Ⅳランク	45.20	45.76	45.20	45.76	(コアの形状欄)Ⅳランク
196	45.20	45.76	∠50~80°の割れ目が2~10cm間隔で発達し、コアは片状~柱状を呈する。割れ目にはしばしば黄褐色土砂状物質を挟在する。岩片は硬質である。	∠50~80°の割れ目が2~10cm間隔で発達し、コアは片状~柱状を呈する。割れ目にはしばしば黄褐色土砂状物質を挟在する。岩片は硬質である。	45.20	45.90	45.20	45.90	45.20~45.90m:傾斜50~80°の割れ目が2~10cm間隔で発達し、片状~柱状を呈する。割れ目には黄褐色土砂状物質を挟在することが多い。
197	45.90	47.37	風化・変質をやや強く受け、一部の割れ目、原岩組織がやや不明瞭となる。全体に1~3cm間隔で網状割れ目が発達する。ほとんどの割れ目に灰白~黄褐色を呈する変質粘土を挟在する。	風化・変質をやや強く受け、一部の割れ目、原岩組織がやや不明瞭となる。全体に1~3cm間隔で網状割れ目が発達する。ほとんどの割れ目に灰白~黄褐色を呈する変質粘土を挟在する。	45.90	47.37	45.90	47.37	45.90~47.37m:風化・変質をやや強く受け、一部の割れ目や原岩組織がやや不明瞭となる。全体に1~3cm間隔で網状の割れ目が発達する。ほとんどの割れ目に灰白~黄褐色の変質粘土を挟在する。
198	46.07	46.07	巾12mm、∠35°、シルト質砂挟在。	幅12mm、∠35°、明黄褐色シルト質砂挟在。	46.07	46.07	46.07	46.07	46.07m:傾斜35°で幅12mmの明黄褐色シルト質砂を挟む。
199	46.10	46.17	マンガン汚染が広がる。割れ目、原岩組織不明瞭であるが、コアは硬い。	マンガン汚染が広がる。割れ目、原岩組織不明瞭であるが、コアは硬い。	46.10	46.17	46.10	46.17	46.10~46.17m:マンガン汚染し、割れ目や原岩組織は不明瞭である。コアは硬い。
200	46.20	46.20	巾1~6mm、∠83°、砂混じりシルト挟在。	幅1~6mm、∠83°、灰白色砂混じりシルト挟在。	46.20	46.20	46.20	46.20	46.20m:傾斜83°で幅1~6mmの灰白色砂混じりシルトを挟む。
201	46.44	-	46.44m以深はやや変質の程度が弱く、上位と比べて割れ目間隔が広くなる。	46.74m以深はやや変質の程度が弱く、上位と比べて割れ目間隔が広くなる。	46.74	-	46.74	-	46.74m以深は変質の程度がやや弱く、上位と比べて割れ目間隔が広くなる。
202	47.03	47.03	巾3mm、∠34°、砂混じりシルト挟在。	幅3mm、∠34°、灰白色砂混じりシルト挟在。	47.03	47.03	47.03	47.03	47.03m:傾斜34°で幅3mmの灰白色砂混じりシルトを挟む。
203	47.37	47.40	(破砕度区分欄)Ⅱb	(破砕度区分欄)Ⅱc	47.37	47.40	47.37	47.40	(破砕度区分欄)Ⅱc
204	47.37	47.40	破砕帯(主断面37.40m)	破砕帯(最新活動面47.40m)	47.37	47.40	47.37	47.40	●47.37~47.40m:破砕帯 粘土混じり破砕帯(H) 上端40°、下端45°でともに凹凸して連続。径2~5mm程度の岩片主体で構成。下部付近に幅1~3mmの暗灰色粘土を挟在する。灰白~褐色を呈する。幅20~25mm。
205	47.37	47.40	噴混り砂状(Hb)。上端40°、下端45°、巾20~25mm。灰白色シルトを主とし、巾1~3mm褐色粘土を挟在する。上端はシブであるが、下端は凹凸する。Hbは灰白~褐色で噴混り砂である。	粘土混じり破砕破砕帯(H)。上端40°、下端45°で凹凸して連続。径2~5mm程度の岩片主体で構成。下部付近に幅1~3mmの連続した連続性の良好な暗灰色粘土を挟在する。硬質。原岩組織が認められる岩片を主体とし高質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。灰白~褐色を呈する。幅20~25mm。	47.37	47.40	47.37	47.40	●47.37~47.40m:破砕帯 粘土混じり破砕帯(H) 上端40°、下端45°でともに凹凸して連続。径2~5mm程度の岩片主体で構成。下部付近に幅1~3mmの暗灰色粘土を挟在する。灰白~褐色を呈する。幅20~25mm。
206	47.40	49.24	全体に変質作用が進行し、コアはシルト混じり砂礫状を呈する。岩片は硬質であるが、網目状に灰白色の粘土~シルトが分布し、コアは全体として脆弱である。	全体に変質作用が進行し、コアはシルト混じり砂礫状を呈する。岩片は硬質であるが、網目状に灰白色の粘土~シルトが分布し、コアは全体として脆弱である。	47.40	49.24	47.40	49.24	47.40~49.24m:全体に変質し、シルト混じり砂礫状を呈する。岩片は硬質であるが、網目状に灰白色の粘土~シルトが分布し、全体として脆弱である。
207	47.55	47.65	(コアの硬さ欄)Ⅱランク (コアの形状欄)Ⅴランク	(コアの硬さ欄)Ⅲランク (コアの形状欄)Ⅳランク	47.55	47.65	47.55	47.65	(コアの硬さ欄)Ⅲランク (コアの形状欄)Ⅳランク
208	47.53	47.53	巾3mm、∠50°、灰白色変質粘土を挟在する。	幅3mm、∠50°、灰白色変質粘土を挟在する。	47.53	47.53	47.53	47.53	47.53m:傾斜50°で幅3mmの灰白色変質粘土を挟む。
209	47.70	48.87	∠60~90°割れ目に沿って著しく変質する(粘土~土砂化)。	-	-	-	47.70	48.87	47.70~48.87m:傾斜60~90°の割れ目沿いに著しく変質し、粘土~土砂化する。

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名:H24-B14-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点 (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点))
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度	記事	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			適正化した記事内容	
210	48.00	49.00 (最大コア長欄)0	48.00	49.00	(最大コア長欄)2	48.00	49.00	(最大コア長欄)2	-
211	48.09	48.09 巾3~5mm、 $\angle 72^\circ$ 、シルト質砂。	48.09	48.09	幅3~5mm、 $\angle 72^\circ$ 、灰白色のシルト質砂を挟む。	48.09	48.09	48.09m:傾斜 72° で幅3~5mmの灰白色のシルト質砂を挟む。	-
212	48.09	48.22 (割れ目状悪層)○ランク (コアの形状欄)▽ランク (コアの硬さ欄)◇ランク	48.09	48.22	(割れ目状悪層)○ランク (コアの形状欄)▽ランク (コアの硬さ欄)◇ランク	48.09	48.22	(割れ目状悪層)○ランク (コアの形状欄)▽ランク (コアの硬さ欄)◇ランク	-
213	48.09	48.86 網状に実質粘土層が発達し、コアは粘土質砂礫~片状を呈する。岩片に風化実質は認められない。	48.09	48.86	網状に実質粘土層が発達し、コアは粘土質砂礫~細片状を呈する。岩片に風化実質は認められない。	48.09	48.86	48.09~48.06m:網状に実質粘土層が発達し、粘土質砂礫~細片状を呈する。岩片に風化実質は認められない。	-
214	49.00	50.00 (最大コア長欄)0	49.00	50.00	(最大コア長欄)2	49.00	50.00	(最大コア長欄)2	-
215	49.24	49.55 破砕帯	49.24	49.55	破砕帯	49.24	49.55	●49.24~49.55m:破砕帯 49.24~49.26m:膠泥じり粘土状部(Hc-2) 上端 20° で凹凸する。下端 35° 。上端は灰白色で、下端に向かって灰色に漸移する。幅15~25mm。 49.26~49.45m:粘土湿り砂礫状部(Hd) 上端 35° で直線的に連続。下端 50° で波打って連続。径2~10mmの岩片主体で、岩片間に粘土細隙が傾斜 $40\sim 60^\circ$ で分布する。実質が進み、緑灰色を呈する。 49.42~49.45m:粘土質礫状部(Hb) 上端 50° で波打って、下端 20° で直線的に連続。上下端に幅0.3~5mmの暗灰色粘土を伴う。径2~10mmの粘土化した岩片主体である。灰白色を呈する。幅10~20mm。 49.45~49.55m:粘土湿り礫状部(Hj) 上端 20° 、下端 35° で直線的に連続。径9~10mmの岩片主体で岩片間に灰白色の粘土層が分布する。淡赤灰色を呈する。 49.50m:砂泥じり粘土状部(Hc-2) 傾斜 45° で、幅5~8mmの白~淡赤灰色砂泥じり粘土を挟む。	-
216	49.24	49.27 砂泥じり粘土状(Hc-2)。上端は凹凸する($\angle 20^\circ$ 程度)。下端 $\angle 35^\circ$ 、巾15~25mm。灰~灰白砂泥じり粘土を呈する。上端は灰白で、下端に向かって灰色に漸移する。	49.24	49.26	膠泥じり粘土状(Hc-2)。上端は凹凸する($\angle 20^\circ$ 程度)。下端 $\angle 35^\circ$ で直線的(最新活動面)。幅15~25mm。灰~灰白色の膠泥じり粘土を呈する。上端は灰白で、下端に向かって灰色に漸移する。取壊で原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。	49.24	49.55	●49.24~49.55m:破砕帯 49.24~49.26m:膠泥じり粘土状部(Hc-2) 上端 20° で凹凸する。下端 35° 。上端は灰白色で、下端に向かって灰色に漸移する。幅15~25mm。 49.26~49.45m:粘土湿り砂礫状部(Hd) 上端 35° で直線的に連続。下端 50° で波打って連続。径2~10mmの岩片主体で、岩片間に粘土細隙が傾斜 $40\sim 60^\circ$ で分布する。実質が進み、緑灰色を呈する。 49.42~49.45m:粘土質礫状部(Hb) 上端 50° で波打って、下端 20° で直線的に連続。上下端に幅0.3~5mmの暗灰色粘土を伴う。径2~10mmの粘土化した岩片主体である。灰白色を呈する。幅10~20mm。 49.45~49.55m:粘土湿り礫状部(Hj) 上端 20° 、下端 35° で直線的に連続。径9~10mmの岩片主体で岩片間に灰白色の粘土層が分布する。淡赤灰色を呈する。 49.50m:砂泥じり粘土状部(Hc-2) 傾斜 45° で、幅5~8mmの白~淡赤灰色砂泥じり粘土を挟む。	-
217	49.27	49.42 粘土湿り砂礫状(Hd)。上端は上記破砕帯と接し、下端は $\angle 35^\circ$ を示す。粘土細隙が $\angle 40\sim 60^\circ$ で多数分布するほか、Hb~Hc-2相当の薄層を挟む。実質進行し、コアは緑灰色を帯びる。	49.26	49.42	粘土湿り砂礫状(Hd)。上端は 35° で直線的。下端は $\angle 50^\circ$ で波打って連続。粘土細隙が $\angle 40\sim 60^\circ$ で局所的に分布する。取壊、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。実質進行し、コアは緑灰色を帯びる。	49.24	49.55	●49.24~49.55m:破砕帯 49.24~49.26m:膠泥じり粘土状部(Hc-2) 上端 20° で凹凸する。下端 35° 。上端は灰白色で、下端に向かって灰色に漸移する。幅15~25mm。 49.26~49.45m:粘土湿り砂礫状部(Hd) 上端 35° で直線的に連続。下端 50° で波打って連続。径2~10mmの岩片主体で、岩片間に粘土細隙が傾斜 $40\sim 60^\circ$ で分布する。実質が進み、緑灰色を呈する。 49.42~49.45m:粘土質礫状部(Hb) 上端 50° で波打って、下端 20° で直線的に連続。上下端に幅0.3~5mmの暗灰色粘土を伴う。径2~10mmの粘土化した岩片主体である。灰白色を呈する。幅10~20mm。 49.45~49.55m:粘土湿り礫状部(Hj) 上端 20° 、下端 35° で直線的に連続。径9~10mmの岩片主体で岩片間に灰白色の粘土層が分布する。淡赤灰色を呈する。 49.50m:砂泥じり粘土状部(Hc-2) 傾斜 45° で、幅5~8mmの白~淡赤灰色砂泥じり粘土を挟む。	-
218	49.42	49.45 49.42~49.45: Hb相当。上端 $\angle 50^\circ$ 、下端 $\angle 20^\circ$ 。上下端に暗灰色粘土0.3~5mmを伴う。	49.42	49.45	49.42~49.45m:粘土質礫状 Hb相当。上端 $\angle 50^\circ$ で波打って、下端 $\angle 20^\circ$ で直線的に連続。上下端に暗灰色粘土0.3~5mmを伴う。取壊、含まれる細粒部は局所的に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。灰白色を呈する。幅10~20mm。	49.24	49.55	●49.24~49.55m:破砕帯 49.24~49.26m:膠泥じり粘土状部(Hc-2) 上端 20° で凹凸する。下端 35° 。上端は灰白色で、下端に向かって灰色に漸移する。幅15~25mm。 49.26~49.45m:粘土湿り砂礫状部(Hd) 上端 35° で直線的に連続。下端 50° で波打って連続。径2~10mmの岩片主体で、岩片間に粘土細隙が傾斜 $40\sim 60^\circ$ で分布する。実質が進み、緑灰色を呈する。 49.42~49.45m:粘土質礫状部(Hb) 上端 50° で波打って、下端 20° で直線的に連続。上下端に幅0.3~5mmの暗灰色粘土を伴う。径2~10mmの粘土化した岩片主体である。灰白色を呈する。幅10~20mm。 49.45~49.55m:粘土湿り礫状部(Hj) 上端 20° 、下端 35° で直線的に連続。径9~10mmの岩片主体で岩片間に灰白色の粘土層が分布する。淡赤灰色を呈する。 49.50m:砂泥じり粘土状部(Hc-2) 傾斜 45° で、幅5~8mmの白~淡赤灰色砂泥じり粘土を挟む。	-
219	-	-	49.45	49.55	粘土湿り礫状(Hj) 上端 20° 、下端 35° で直線的に連続。径9~10mmの岩片主体で岩片間に灰白色の粘土層が局所的に分布する。やや取壊。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。淡赤灰色を呈する。	49.24	49.55	●49.24~49.55m:破砕帯 49.24~49.26m:膠泥じり粘土状部(Hc-2) 上端 20° で凹凸する。下端 35° 。上端は灰白色で、下端に向かって灰色に漸移する。幅15~25mm。 49.26~49.45m:粘土湿り砂礫状部(Hd) 上端 35° で直線的に連続。下端 50° で波打って連続。径2~10mmの岩片主体で、岩片間に粘土細隙が傾斜 $40\sim 60^\circ$ で分布する。実質が進み、緑灰色を呈する。 49.42~49.45m:粘土質礫状部(Hb) 上端 50° で波打って、下端 20° で直線的に連続。上下端に幅0.3~5mmの暗灰色粘土を伴う。径2~10mmの粘土化した岩片主体である。灰白色を呈する。幅10~20mm。 49.45~49.55m:粘土湿り礫状部(Hj) 上端 20° 、下端 35° で直線的に連続。径9~10mmの岩片主体で岩片間に灰白色の粘土層が分布する。淡赤灰色を呈する。 49.50m:砂泥じり粘土状部(Hc-2) 傾斜 45° で、幅5~8mmの白~淡赤灰色砂泥じり粘土を挟む。	-
220	49.50	49.50 He-2相当。巾5~8mm、 $\angle 45^\circ$ 、白~淡赤白砂泥じり粘土。	49.50	49.60	He-2相当。幅5~8mm、 $\angle 45^\circ$ 、白~淡赤灰色砂泥じり粘土を挟む。直線性に乏しい。やや取壊。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。	49.24	49.55	●49.24~49.55m:破砕帯 49.24~49.26m:膠泥じり粘土状部(Hc-2) 上端 20° で凹凸する。下端 35° 。上端は灰白色で、下端に向かって灰色に漸移する。幅15~25mm。 49.26~49.45m:粘土湿り砂礫状部(Hd) 上端 35° で直線的に連続。下端 50° で波打って連続。径2~10mmの岩片主体で、岩片間に粘土細隙が傾斜 $40\sim 60^\circ$ で分布する。実質が進み、緑灰色を呈する。 49.42~49.45m:粘土質礫状部(Hb) 上端 50° で波打って、下端 20° で直線的に連続。上下端に幅0.3~5mmの暗灰色粘土を伴う。径2~10mmの粘土化した岩片主体である。灰白色を呈する。幅10~20mm。 49.45~49.55m:粘土湿り礫状部(Hj) 上端 20° 、下端 35° で直線的に連続。径9~10mmの岩片主体で岩片間に灰白色の粘土層が分布する。淡赤灰色を呈する。 49.50m:砂泥じり粘土状部(Hc-2) 傾斜 45° で、幅5~8mmの白~淡赤灰色砂泥じり粘土を挟む。	-
221	49.55	49.64 風化・実質により、コア表面粗く、脆弱。	-	-	-	49.55	49.64	49.55~49.64m:風化・実質により、コア表面が粗く、脆弱である。	-
222	49.70	50.27 (コアの形状欄)▽ランク	49.70	50.27	(コアの形状欄)▽ランク	49.70	50.27	(コアの形状欄)▽ランク	-
223	49.64	50.50 $\angle 40\sim 50^\circ$ の割れ目が1~3cmで発達するほか、 $\angle 75^\circ$ 以上の高角割れ目が分布する。コア採取時に乱し、コアは ~ 50 cmの片状を呈する。上段と比べて風化・実質の程度は弱く、比較的良好的な岩盤と考えられる。	49.64	50.50	$\angle 40\sim 50^\circ$ の割れ目が1~3cm間隔で発達するほか、 $\angle 75^\circ$ 以上の高角割れ目が分布する。コア採取時に乱し、コアは ~ 50 cmの片状を呈する。上段と比べて風化・実質の程度は弱く、比較的良好的な岩盤と考えられる。	49.64	50.50	49.64~50.50m:傾斜 $40\sim 50^\circ$ の割れ目が1~3cm間隔で発達するほか、傾斜 75° 以上の高角割れ目が分布する。コア採取時に乱し、径1~5cmの細片状を呈する。	-
224	50.00	51.00 (最大コア長欄)0	50.00	51.00	(最大コア長欄)2	50.00	51.00	(最大コア長欄)2	-
225	50.50	51.43 コア落下、回収不能。	50.50	51.43	コア欠如。回収不能。	50.50	51.43	50.50~51.43m:コア欠如	-
226	50.50	51.43 (地質名欄)Gp (色調欄)コア欠	50.50	51.43	(地質名欄)コア欠如 (色調欄)空欄	50.50	51.43	(地質名欄)コア欠如 (色調欄)空欄	-
227	51.00	52.00 (最大コア長欄)7	51.00	52.00	(最大コア長欄)2	51.00	52.00	(最大コア長欄)2	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名:H24-B14-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点 (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を本書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
228	51.43	52.36	51.43	52.36	51.43	52.36	51.43	52.36	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
229	51.89	51.92	51.89	51.92	51.89	51.92	51.89	51.92	-
230	52.00	53.00	52.00	53.00	52.00	53.00	52.00	53.00	-
231	52.14	52.36	52.14	52.36	-	-	-	-	記事欄以外から読み取れる硬さやコアの形状の情報は記載しない
232	52.36	52.92	52.36	52.92	52.36	52.92	52.36	52.92	記事欄以外から読み取れるコアの形状の情報は記載しない
233	-	-	52.50	52.52	52.50	52.52	52.50	52.52	-
234	52.60	52.76	52.60	52.76	52.60	52.76	52.60	52.76	-
235	52.60	52.92	52.60	52.92	52.60	52.92	52.60	52.92	-
236	52.92	53.33	52.92	53.33	52.92	53.33	52.92	53.33	-
237	53.33	53.35	53.33	53.35	53.33	53.35	53.33	53.35	-
238	53.35	53.82	-	-	-	-	53.35	53.82	-
239	53.82	54.48	53.82	54.48	53.82	54.48	53.82	54.48	記事欄以外から読み取れる硬さやコアの形状の情報は記載しない
240	54.48	55.00	54.48	55.00	54.48	55.00	54.48	55.00	-
241	54.48	56.40	-	-	-	-	54.48	56.40	-
242	55.00	60.00	55.00	60.00	55.00	60.00	55.00	60.00	-
243	55.00	55.40	55.00	55.40	55.00	55.40	55.00	55.40	-
244	55.40	55.84	55.40	55.84	55.40	55.84	55.40	55.84	-
245	56.84	56.82	-	-	-	-	56.84	56.82	-
246	56.38	56.62	-	-	-	-	56.38	56.62	-
247	55.84	57.05	55.84	57.05	55.84	57.05	55.84	57.05	-
248	56.62	57.42	-	-	-	-	56.62	57.42	-
249	56.82	56.82	56.82	56.82	56.82	56.82	56.82	56.82	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名:H24-B14-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点 (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示 (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
250	56.62	56.91	(コアの硬さ欄)Cランク	56.62	56.91	(コアの硬さ欄)Bランク	56.62	56.91	(コアの硬さ欄)Bランク	-	
251	57.42	57.68	上下位に比べて変質作用により岩盤が劣化し、軟質となる。長石類の大半は緑色鉱物(緑泥石?)に変質する。	57.42	57.68	上下位に比べて変質作用により岩盤が劣化し、やや軟質となる。長石類の大半は緑色鉱物(緑泥石?)に変質する。	57.42	57.68	57.42~57.68m:変質が進み、やや軟質となる。長石類の大半は緑泥石化する。	-	
252	57.68	57.68	67.68m、割れ目沿いにマンガンが濃集し(最大幅2mm)、周囲の微細な割れ目はマンガンに汚染される。	-	-	-	57.68	57.68	57.68m:割れ目沿いに最大幅2mmでマンガンが濃集し、周辺の微細な割れ目もマンガンに汚染される。	-	
253	57.68	58.00	57.68~58.00m、上位に比べて変質作用は軽微となる。	57.68	58.00	57.68~58.00m、上位に比べて変質作用は軽微となる。	57.68	58.00	57.68~58.00m:上位に比べて変質は軽微となる。	-	
254	58.00	58.31	(割れ目状態欄)cランク (コアの硬さ欄)Cランク	58.00	58.31	(割れ目状態欄)bランク (コアの硬さ欄)Bランク	58.00	58.31	(割れ目状態欄)bランク (コアの硬さ欄)Bランク	-	
255	58.00	58.50	上下位に比べて変質良好となる。割れ目沿い及び岩芯の酸化汚染はほとんどみられない。	-	-	-	58.00	58.50	58.00~58.50m:上下位に比べて岩質は良好である。割れ目沿い及び岩芯の酸化汚染はほとんど見られない。	-	
256	58.50	58.78	変質作用により、長石類は緑色鉱物に変質し、軟質となる。傾斜30°程度の割れ目が優勢となる。	58.50	58.78	変質作用により、長石類は緑色鉱物に変質し、やや軟質となる。傾斜30°程度の割れ目が優勢となる。	58.50	58.78	58.50~58.78m:長石類は緑色鉱物に変質し、やや軟質である。傾斜30°程度の割れ目が主体である。	-	
257	58.78	59.05	58.78~59.05m、上位と比べて変質作用は軽微であり、硬質となる。	58.78	59.05	58.78~59.05m、上位と比べて変質作用は軽微であり、やや硬質となる。	58.78	59.05	58.78~59.05m:上位と比べて変質は軽微であり、やや硬質である。	-	
258	59.05	59.25	上下位に比べて、変質作用によって岩盤が劣化し、軟質となる。長石類は淡緑色鉱物(緑泥石?)に変質する。	59.05	59.25	上下位に比べて、変質作用によって岩盤が劣化し、やや軟質となる。長石類は淡緑色鉱物(緑泥石?)に変質する。	59.05	59.25	59.05~59.25m:上下位に比べて変質し、やや軟質である。長石類は緑泥石化する。	-	
259	59.48	59.55	(コアの形状欄)IVランク	59.48	59.55	(コアの形状欄)Vランク	59.48	59.55	(コアの形状欄)Vランク	-	
260	59.55	59.85	下に破砕帯、上位に変質帯を伴い、岩盤は劣化する。割れ目間隔は3cm以下であり、微細な割れ目を伴い、亀甲状を呈す。 上部(59.90m付近まで)には、マンガン及び暗緑色鉱物を伴い、酸化汚染は軽微であるのに対して、下部(60.42~60.82m)では割れ目沿いに褐色化がみられ、緑色鉱物が付着、検出する。下部にも割れ目沿いの細片化がみられる。	59.55	60.85	下に破砕帯、上位に変質帯を伴い、岩盤は劣化する。割れ目間隔は3cm以下であり、微細な割れ目を伴い、亀甲状を呈す。 上部(59.90m付近まで)には、マンガン及び暗緑色鉱物を伴い、酸化汚染は軽微であるのに対して、下部(60.42~60.82m)では割れ目沿いに褐色化がみられ、緑色鉱物が付着、検出する。上下ともに割れ目沿いの細片化が見られる。	59.55	60.85	59.55~60.85m:割れ目間隔は3cm以下で、微細な割れ目を伴い、亀甲状を呈す。59.90m付近までは、マンガン及び暗緑色鉱物を伴い、酸化汚染は軽微である。60.42~60.82mでは割れ目沿いに褐色化し、緑色鉱物脈が付着、または検出する。全体に割れ目沿いの細片化が見られる。	・上位・下位の寄附層、破砕帯の記事は別の記事で読み取れるため記載しない	
261	60.65	150.00	アブライト	-	-	-	60.65	150.00	60.65~150.00m:アブライト	-	
262	60.85	61.12	破砕帯(主せん断面:R119m)、上盤40°、下盤43°を呈す。境界は明瞭。	60.85	61.12	破砕帯(最新活動面:61.12m)、上盤40°、下盤60°を呈す。境界は明瞭。	60.85	61.12	●60.85~61.12m:破砕帯 粘土混じり角礫状部(H) 上盤40°、下盤60°でともに直線的に連続。径5~30mmの硬さ「C」の角礫からなる。明黄褐色-緑灰色を呈する。	・後述、原岩組織が認められる岩片を主体とし変質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。	
263	60.85	61.11	粘土混じり角礫状破砕帯(原岩の組織は残る。硬は硬質(硬さC)。(H)相当)。(H)相当)。	60.85	61.12	粘土混じり角礫状破砕帯(原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。径5~30mmの硬さ「C」硬質(硬さC)。(H)相当)。含まれる細粒部は細目状に分布。明黄褐色-緑灰色を呈する。	60.85	61.12	60.85	61.12	●60.85~61.12m:破砕帯 粘土混じり角礫状部(H) 上盤40°、下盤60°でともに直線的に連続。径5~30mmの硬さ「C」の角礫からなる。明黄褐色-緑灰色を呈する。
264	60.85	61.12	(色調欄)5YR6/1(褐灰) (割れ目状態欄)cランク (コアの形状欄)VIランク	60.85	61.12	(色調欄)明黄褐色(2.5Y7/6) (割れ目状態欄)cランク (コアの形状欄)Vランク	60.85	61.12	(色調欄)明黄褐色 (割れ目状態欄)cランク (コアの形状欄)Vランク	-	
265	61.12	63.47	傾斜30°~40°及び70°の主な割れ目とこれに斜交する微細な割れ目がみられ、一部亀甲状を呈す。上部の割れ目はすべて酸化汚染を受け、褐色化する。岩芯には新鮮部がみられる。割れ目沿いに細片化、一部で細粒化する。	-	-	-	61.12	63.47	61.12~63.47m:傾斜30°~40°及び70°の割れ目と、これらに斜交する微細な割れ目が見られ、一部亀甲状を呈する。連続する割れ目は全て酸化汚染を受け、褐色化する。岩芯には新鮮部が見られる。割れ目沿いに細片化、一部で細粒化する。	-	
266	62.97	63.09	割れ目密集し脆弱。下端45°、巾1~2mm。緑白粘土。	62.97	63.09	割れ目密集し脆弱。下端45°、幅1~2mm。緑灰色粘土。	62.97	63.09	62.97~63.09m:割れ目が密集し脆弱である。下端には傾斜45°で幅1~2mmの緑灰色粘土を挟む。	-	
267	63.09	63.47	(コアの形状欄)IVランク	63.09	63.47	(コアの形状欄)Vランク	63.09	63.47	(コアの形状欄)Vランク	-	
268	63.09	63.32	(割れ目状態欄)cランク	63.09	63.32	(割れ目状態欄)bランク	63.09	63.32	(割れ目状態欄)bランク	-	
269	63.47	64.15	上位と比べて割れ目間隔広く(巾5~10cm)。コアは柱状を呈する。割れ目沿いに細片化が認められるが、コア自体は硬質である。	63.47	64.15	上位と比べて割れ目間隔広く(幅5~10cm)コアは短柱状を呈する。割れ目沿いに細片化が認められるが、コア自体は硬質である。	63.47	64.15	63.47~64.15m:割れ目間隔で上位と比べて広い。割れ目沿いに細片化が認められる。	・記事欄以外から読み取れる硬さやコアの形状の情報は記載しない	
270	64.15	64.59	(岩級区分欄)CL	64.15	64.59	(岩級区分欄)CM	64.15	64.59	(岩級区分欄)CM	-	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名:H24-B14-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	適正した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
271	64.15	64.82	-	-	-	64.15	64.82	64.15~64.82m: 傾斜40~60°の割れ目が9~10cm間隔で分布し、これらと平行もしくは斜交する潜在(密着)割れ目が発達する。潜在割れ目は容易には分離しないが、コアはハンマーの打診でやや鈍い音を発する。	64.15~64.82m: 傾斜40~60°の割れ目が9~10cm間隔で分布し、これらと平行もしくは斜交する潜在割れ目が発達する。潜在割れ目は容易には分離しないが、ハンマーの打診でやや鈍い音を発する。
272	64.26	64.51	-	-	-	64.26	64.51	64.26~64.51m: 上端45°、下端60°程度で壊されて変質が進む。	-
273	64.59	64.82	64.59	64.82	(コアの形状欄)IVランク	64.59	64.82	(コアの形状欄)Vランク	-
274	64.82	65.32	64.82	65.32	30~45°および70°の割れ目が1~3cm間隔で発達し、コアは薄片状(薄片は硬質)を呈する。しばしば低角度割れ目沿いに変質し、白雲母を挟む。	64.82	65.32	64.82~65.32m: 傾斜30~45°と70°の割れ目が1~3cm間隔で発達する。低角度割れ目沿いに変質し、白雲母を挟む。	記事欄以外から読み取れる様さやコアの形状の情報は記載しない
275	65.32	65.32	65.32	65.32	フィルム状~巾5mm、45°、灰白色砂泥じり粘土。	65.32	65.32	フィルム状~幅5mm、45°、灰白色砂泥じり粘土。	65.32m: 傾斜45°でフィルム状~幅5mmの灰白色砂泥じり粘土を挟む。
276	65.32	65.42	65.32	65.42	(割れ目状況欄)cランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Dランク (変質欄)2ランク	65.32	65.42	(割れ目状況欄)cランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Eランク (変質欄)3ランク	-
277	65.32	65.86	-	-	-	65.32	65.86	65.32~65.86m: 風化・変質し、軟質化する。割れ目沿いに脱色し細粒化する。一部に褐色化も見られる。有色鉱物周縁部も褐色化する。	-
278	65.67	65.86	-	-	-	65.67	65.86	65.67~65.86m: コア主体が脱色し、灰白~淡黄色を呈する。	-
279	65.85	65.85	65.85	65.85	巾1mm、43°、灰白粘土挟在、マンガン濃集を伴う。	65.85	65.85	65.85m: 傾斜34°で幅1mmの灰白色粘土を挟み、マンガン濃集を伴う。	-
280	65.86	66.06	-	-	-	65.86	66.06	65.86~66.06m: 不規則に潜在割れ目が発達し、ハンマーの打撃で分離しやすい。	-
281	65.86	66.06	65.86	66.06	(コアの形状欄)Vランク	65.86	66.06	(コアの形状欄)IVランク	-
282	65.86	65.35	65.86	65.35	(岩級区分欄)CL	65.86	65.35	(岩級区分欄)CM	-
283	65.86	66.43	65.86	66.43	(割れ目状況欄)cランク	65.86	66.43	(割れ目状況欄)bランク	-
284	66.00	67.00	66.00	67.00	(RQD欄)22	66.00	67.00	(RQD欄)10	-
285	66.00	67.38	66.00	67.38	30~50°の割れ目が2~15cm間隔でコアは良好であり、それと斜交するように65°以上の高角度割れ目が発達する。	66.00	67.38	66.00~67.38m: 傾斜30~50°の割れ目が9~15cm間隔で分布し、それと斜交する傾斜65°以上の高角度割れ目が発達する。	-
286	66.06	66.81	66.06	66.81	66.06~66.81m間では、高角度割れ目の多くは密着している。割れ目、密着割れ目のほとんどで褐色化が認められる。	66.06	66.81	66.06~66.81m: 高角度割れ目の多くは密着する。割れ目、密着割れ目のほとんどで褐色化が認められる。	-
287	66.85	68.23	66.85	68.23	(岩級区分欄)CL	66.85	68.23	(岩級区分欄)CM	-
288	66.05	67.38	66.05	67.38	(割れ目状況欄)cランク	66.05	67.38	(割れ目状況欄)bランク	-
289	66.86	66.86	66.86	66.86	45°の割れ目間(巾15mm)、岩質劣化する。	66.86	66.86	66.86m: 傾斜45°で幅15mmが脱色し、軟質化する。	-
290	66.90	66.90	66.90	66.90	巾1mm、45°、淡黄褐色砂泥じりシルト挟在。	66.90	66.90	66.90m: 傾斜45°で幅1mmの淡黄褐色砂泥じりシルトを挟む。	-
291	67.38	67.51	67.38	67.51	風化・変質を強く受け、コアは指圧でほぐせるほど軟質である。上端は45°、下端は20°で壊れる。これ以降、上位と比べて風化の影響を強く受ける。	67.38	67.51	67.38~67.51m: 上端35°、下端20°で崩れ、風化・変質を強く受け、指圧でほぐせるほど軟質である。	-
292	67.38	67.51	67.38	67.51	(割れ目状況欄)cランク	67.38	67.51	(割れ目状況欄)cランク	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名: H24-B14-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それと変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (管理番号を省略して表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	適正化した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
293	67.51	68.23	67.51	68.23	67.51	68.23	67.51	68.23	記事欄以外から読み取れるべき情報は記載しない
294	67.51	68.23	67.51	68.23	67.51	68.23	67.51	68.23	-
295	68.23	68.63	68.23	68.63	68.23	68.63	68.23	68.63	-
296	68.23	68.33	68.23	68.33	68.23	68.33	68.23	68.33	-
297	68.23	68.41	68.23	68.41	68.23	68.41	68.23	68.41	-
298	68.41	68.63	68.41	68.63	68.41	68.63	68.41	68.63	-
299	68.42	68.63	68.42	68.63	68.42	68.63	68.42	68.63	-
300	68.48	68.57	-	-	-	-	68.48	68.57	-
301	68.63	68.77	68.63	68.77	68.63	68.77	68.63	68.77	-
302	68.63	70.03	-	-	-	-	68.63	70.03	-
303	68.93	69.25	-	-	-	-	68.93	69.25	記事欄以外から読み取れるべき情報は記載しない
304	69.18	69.22	69.18	69.22	69.18	69.22	69.18	69.22	-
305	69.42	69.42	69.42	69.42	69.42	69.42	69.42	69.80	記事内容が同じであるため、69.72m、69.80mの記事をまとめて記載した
306	69.72	69.72	69.72	69.72	-	-	-	-	上記でまとめた書きのため記載しない
307	69.80	69.80	69.80	69.80	-	-	-	-	上記でまとめた書きのため記載しない
308	69.96	70.00	-	-	-	-	69.96	70.00	-
309	70.00	71.00	70.00	71.00	70.00	71.00	70.00	71.00	-
310	70.03	70.33	70.03	70.33	70.03	70.33	70.03	70.33	-
311	70.03	70.33	70.03	70.33	70.03	70.33	70.03	70.33	-
312	70.03	70.14	-	-	-	-	70.03	70.14	-
313	70.16	70.16	70.16	70.16	70.16	70.16	70.16	70.16	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名:H24-B14-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
314	70.33	70.88	70.33	70.88	70.33	70.88	70.33	70.88	70.33~70.88m:傾斜40°程度の割れ目が卓越し、0.5~4cm間隔で発達する。割れ目の密集するところではやや変質が進行するが、コアは断片~短柱状で採取される。断片は硬質である。	-記事欄以外から読み取れる硬さやコアの形状の情報は記載しない。割れ目が密集するところでは変質がやや進む。
315	70.80	71.05	70.88	71.05	-	-	70.88	71.05	(割れ目状態欄)Vランク	-
316	70.88	71.05	-	-	-	-	70.88	71.05	上位と比べて風化・変質が進行し、コアは軟質化している。	-
317	71.00	72.00	71.00	72.00	(RQD欄)0 (最大コア長欄)7	-	71.00	72.00	(RQD欄)0 (最大コア長欄)7	-
318	70.88	70.93	70.88	70.93	70.88	70.93	70.88	70.93	指圧で変形するほど軟質で、H様を呈する。上端はコア算降により不明、下端は45°。変質で割れ目状粘土が発達するが、原岩組織は認められる。	-
319	71.05	71.32	71.05	71.32	-	-	-	-	風化・変質の程度弱く、コアはやや硬質となる。	-記事欄以外から読み取れる硬さ、風化、変質の情報は記載しない
320	71.05	71.68	71.05	71.68	(コアの形状欄)Vランク	-	71.05	71.68	(コアの形状欄)Vランク	-
321	71.32	71.79	-	-	-	-	71.32	71.79	上下位に比べて変質が進行し、コアはやや軟質となる。コア表面粗い。	-記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
322	71.79	73.17	71.79	73.17	(割れ目状態欄)Vランク	-	71.79	73.17	(割れ目状態欄)Vランク	-
323	71.79	72.14	71.79	72.14	(岩鏡区分欄)CL	-	71.79	72.14	(岩鏡区分欄)CM	-
324	71.79	72.14	71.79	72.14	71.79	72.14	71.79	72.14	40~60°の割れ目が卓越し、コアは一部断片状となる。割れ目沿いに細粒化が認められるほか、酸化・マンガン汚染もあわせて認められる。	-
326	72.14	72.14	72.14	72.14	72.14	72.14	72.14	72.14	40°、巾1~2mm、灰~緑灰色砂混じりシルト挟在。白雲母が混入する。	-
328	72.14	72.90	-	-	-	-	72.14	72.90	20~30°の割れ目が1~10cm間隔で発達する。割れ目沿いに著質劣化するが、コアは硬質、ハンマー打診で金属音を発する。	-記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
327	-	-	72.70	73.00	72.70	73.00	72.70	73.00	傾斜60~90°で幅1~2mmの石英脈を挟む。	-
328	72.90	73.53	72.90	73.53	72.90	73.53	72.90	73.53	50°および70°以上の高角度割れ目が5~10cm間隔で発達し、コアは柱状を呈する。	-記事欄以外から読み取れるコアの形状の情報は記載しない
329	73.00	73.13	73.00	73.13	73.00	73.13	73.00	73.13	73.00~73.13mは、やや変質(脱色)し、上下位と比べて軟質となっている。	-記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
330	73.13	73.13	-	-	-	-	73.13	73.13	73.13mの割れ目(40°)は褐色化し、周囲も斑状に褐色化する。	-
331	73.17	73.53	73.17	73.53	(コアの形状欄)Vランク	-	73.17	73.53	(コアの形状欄)Vランク	-
332	73.53	73.74	-	-	-	-	73.53	73.74	40°の割れ目が1~5cm間隔で発達し、割れ目沿いに著質劣化が進行する。割れ目面はオリーブ灰色を呈し、白雲母を伴う。	-
333	73.74	73.93	73.74	73.93	(コアの形状欄)Vランク	-	73.74	73.93	(コアの形状欄)Vランク	-
334	73.74	75.24	73.74	75.24	(割れ目状態欄)Vランク	-	73.74	75.24	(割れ目状態欄)Vランク	-
335	73.62	73.63	73.62	73.63	73.62	73.63	73.62	73.63	10mm程度、40°割れ目間変質により緑灰色を帯びる。青色鉱物は褐色化し、全所に軟質化している。	-
336	73.74	74.95	73.74	74.95	73.74	74.95	73.74	74.95	73.74~74.95m、40~60°の割れ目が2~15cm程度の間隔で発達する。割れ目面わずかに緑灰色化するが、岩芯は新鮮、コアは断片~柱状を呈し、硬質である。	-記事欄以外から読み取れる硬さやコアの形状の情報は記載しない
337	74.30	74.95	-	-	-	-	-	-	割れ目間隔広くなり、コアは柱状を主とする。	-記事欄以外から読み取れるコアの形状の情報は記載しない
338	74.95	75.91	74.95	75.91	(岩鏡区分欄)CL	-	74.95	75.91	(岩鏡区分欄)CM	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名: H24-B14-2

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)										
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度		記事									
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>														
339	75.24	75.91	40° および45° 程度の割れ目が発達し、それらと斜交する潜在割れ目が分布する。割れ目および潜在割れ目沿いに岩質劣化し、上下位と比べてやや脆弱である。	-	-	-	75.24~75.91m: 傾斜40° 及び45° 程度の割れ目が発達し、それらと斜交する潜在割れ目が分布する。割れ目及び潜在割れ目沿いに岩質劣化し、上下位と比べてやや脆弱である。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
340	75.35	75.35	75.35m付近、45° の割れ目に沿って幅8~20mm 岩質劣化し、土砂状を呈する。コア採取時細粒分を一部流失する。	75.35	75.35	75.35m付近、45° の割れ目に沿って幅8~20mm 岩質劣化し、土砂状を呈する。コア採取時細粒分を一部流失する。	75.35	75.35	75.35	75.35	75.35	75.35	75.35	75.35	75.35	75.35	75.35
341	75.50	76.27	(割れ目状態欄)cランク	75.50	76.27	(割れ目状態欄)bランク	75.50	76.27	75.50	76.27	75.50	76.27	75.50	76.27	75.50	76.27	75.50
342	76.01	77.91	40~60° の割れ目が5~20cm間隔で発達する。割れ目沿いに黄鉄鉱(黄色)し、割れ目面は白雲母を伴い、オリブ灰色を呈する。わずかに黄鉄鉱付着する。コアは硬質で短柱~柱状を呈する。	-	-	-	75.91~77.91m: 傾斜40~60° の割れ目が5~20cm間隔で分布し、割れ目沿いに脱色する。割れ目面はオリブ灰色を呈し、白雲母を伴う。わずかに黄鉄鉱も付着する。	-	-	75.91	77.91	75.91	77.91	75.91	77.91	75.91	77.91
343	76.27	-	76.27m以深、潜在割れ目は少なくなる。	-	-	-	76.27m以深は、潜在割れ目が少なくなる。	-	-	76.27	-	76.27	-	76.27	-	76.27	-
344	-	-	-	76.05	76.05	傾斜50°、幅3~5mmの石英脈を挟む。	76.05m: 傾斜50° で幅3~5mmの石英脈を挟む。	-	-	76.05	76.05	76.05	76.05	76.05	76.05	76.05	76.05
345	77.00	77.91	割れ目間隔広くなり、コアは長柱状を呈する。	-	-	-	77.00~77.91m: 割れ目間隔が広くなり、長柱状を呈する。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
346	77.17	77.91	(コアの形状欄)Ⅲランク	77.17	77.91	(コアの形状欄)Ⅱランク	(コアの形状欄)Ⅱランク	77.17	77.91	77.17	77.91	77.17	77.91	77.17	77.91	77.17	77.91
347	77.38	77.38	40° 割れ目面に黄鉄鉱が濃集する。	-	-	-	77.38m: 傾斜40° の割れ目面に黄鉄鉱が濃集して晶出する。	-	-	77.38	77.38	77.38	77.38	77.38	77.38	77.38	77.38
348	77.91	79.32	(割れ目状態欄)cランク	77.91	79.32	(割れ目状態欄)bランク	(割れ目状態欄)bランク	77.91	79.32	77.91	79.32	77.91	79.32	77.91	79.32	77.91	79.32
349	77.91	79.79	(風化欄)αランク	77.91	79.79	(風化欄)βランク	(風化欄)βランク	77.91	79.79	77.91	79.79	77.91	79.79	77.91	79.79	77.91	79.79
350	77.91	78.25	40~60° および不規則な高角割れ目が発達し、コアは片状を呈する。割れ目沿いに細片化や脱色が認められるが、岩片は硬質。	77.91	78.25	40~60° および不規則な高角割れ目が発達し、コアは細片状を呈する。割れ目沿いに細片化や脱色が認められるが、岩片は硬質。	77.91~78.25m: 傾斜40~60° の他、不規則な高角割れ目が発達し、細片状を呈する。割れ目沿いに細片化や脱色が認められる。	-	-	77.91	78.25	77.91	78.25	77.91	78.25	77.91	78.25
351	78.25	79.14	20~40° の割れ目が2~10cm間隔で発達し、コアは片~短柱状を呈する。割れ目面は褐色もしくは緑灰色化し、多くの割れ目に白雲母を伴う。割れ目沿いに細粒化し(一部流失する)、割れ目のかみ合せ悪い。	78.25	79.14	20~40° の割れ目が2~10cm間隔で発達し、コアは細片~短柱状を呈する。割れ目面は褐色もしくは緑灰色化し、多くの割れ目に白雲母を伴う。割れ目沿いに細粒化し(一部流失する)、割れ目のかみ合せ悪い。	78.25~79.14m: 傾斜20~40° の割れ目が2~10cm間隔で発達する。割れ目面は褐色もしくは緑灰色化し、多くの割れ目に白雲母を伴う。割れ目沿いに細粒化し、一部流失しているため割れ目のかみ合せが悪い。	-	-	78.25	79.14	78.25	79.14	78.25	79.14	78.25	79.14
352	78.44	78.61	割れ目交錯し、コアは片状を主とする。	78.44	78.61	割れ目交錯し、コアは細片状を主とする。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
353	79.14	79.79	40~50° の割れ目が1~3cm間隔で発達し、コアは片状を主とする。割れ目沿いに脱色・細粒化が進行する。コア採取時に細粒物を流失している。	79.14	79.79	40~50° の割れ目が1~3cm間隔で発達し、コアは細片状を主とする。割れ目沿いに脱色・細粒化が進行する。コア採取時に細粒物を流失している。	79.14~79.79m: 傾斜40~50° の割れ目が1~3cm間隔で発達する。割れ目沿いに脱色・細粒化が進む。コア採取時に細粒物を流失する。	-	-	79.14	79.79	79.14	79.79	79.14	79.79	79.14	79.79
354	79.42	79.42	巾5~10mm、40°、灰色帯、石英の粒からなる。	79.42	79.42	幅5~10mm、40°、灰色の石英脈を挟む。	79.42m: 傾斜20° で幅5~10mmの灰色の石英脈を挟む。	-	-	79.42	79.42	79.42	79.42	79.42	79.42	79.42	79.42
355	79.64	79.79	上下位に比べて変質を強く受け、コアは軟質となっている。又、割れ目沿いの褐色化が目立つ。	-	-	-	79.64~79.79m: 割れ目沿いの褐色化が目立つ。	-	-	79.64	79.79	79.64	79.79	79.64	79.79	79.64	79.79
356	79.77	79.77	巾8mm、40°、灰白~暗褐色を呈するシルト質砂状体。	79.77	79.77	幅8mm、40°、灰白~暗褐色を呈し、シルト質砂状に変質する。硬質。	79.77m: 傾斜40°、幅8mmで灰白~暗褐色のシルト質砂状に変質するが、硬質である。	-	-	79.77	79.77	79.77	79.77	79.77	79.77	79.77	79.77
357	79.77	79.79	巾10mm、40°	79.77	79.79	巾10mm、40°	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
358	79.79	82.03	(割れ目状態欄)cランク	79.79	82.03	(割れ目状態欄)bランク	(割れ目状態欄)bランク	79.79	82.03	79.79	82.03	79.79	82.03	79.79	82.03	79.79	82.03
359	79.79	82.13	40~50° の割れ目が5~8cm間隔で発達し、コアは短柱状を主とする。割れ目面の一部はオリブ灰色を呈し、白雲母を伴う。割れ目沿いに脱色が認められるが、岩質は硬質である。	-	-	-	79.79~82.13m: 傾斜40~50° の割れ目が5~8cm間隔で分布する。割れ目面の一部はオリブ灰色を呈し、白雲母を伴う。割れ目沿いに脱色する。	-	-	79.79	82.13	79.79	82.13	79.79	82.13	79.79	82.13
360	80.00	82.03	(風化欄)αランク	80.00	82.03	(風化欄)βランク	(風化欄)βランク	80.00	82.03	80.00	82.03	80.00	82.03	80.00	82.03	80.00	82.03
361	80.63	81.47	70° 以上の高角割れ目が発達する。割れ目面凹凸し、風化・変質、挟在物は認められない。	-	-	-	80.63~81.47m: 傾斜70° 以上の高角割れ目が発達する。割れ目面は凹凸し、風化・変質、挟在物は認められない。	-	-	80.63	81.47	80.63	81.47	80.63	81.47	80.63	81.47

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名:H24-B14-2

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度		記事
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			適正化した記事内容	
362	81.25	81.25	∠40° 巾1~2mm, 黄鉄鉱が割れ目に付着する。	∠40°、幅1~2mm, 黄鉄鉱が割れ目に付着する。	81.25	81.25	81.25m, 傾斜40° の割れ目に幅1~2mmで黄鉄鉱が付着する。	-
363	81.40	81.76	∠30~50° の割れ目が交錯し、コアは片状を呈する。割れ目沿いに細片化し、コアのみみ合せ悪い。(コア露露による?)	∠30~50° の割れ目が交錯し、コアは一部細片状を呈する。割れ目沿いに細片化し、コアのみみ合せ悪い。(コア露露による?)	81.40	81.76	81.40~81.76m, 傾斜30~50° の割れ目が交錯し、コアは一部細片状を呈する。割れ目沿いに細片化し、コアのみみ合せが悪い。	-
364	-	-	-	傾斜50°、幅2~5mmの石英脈を挟む	81.60	81.60	81.60m, 傾斜50° で幅2~5mmの石英脈を挟む。	-
365	-	-	-	傾斜45°、幅1mmの石英脈を挟む	81.99	81.99	81.99m, 傾斜45° で幅1mmの石英脈を挟む。	-
366	82.13	82.72	(コアの形状欄)Ⅲランク	(コアの形状欄)Ⅲランク	82.13	82.72	(コアの形状欄)Ⅲランク	-
367	82.13	83.59	上位と比べて割れ目(∠40~50°)間隔広くなり(10~20cm程度)。コアは柱状を主とする。割れ目面は黒白~オリーブ灰色を呈し、白雲母、黄鉄鉱の付着が認められる。また、割れ目沿いおよび潜在割れ目沿いに脱色が認められる。	上位と比べて割れ目(∠40~50°)間隔広くなり(10~20cm程度)。コアは柱状を主とする。割れ目面は黒白~オリーブ灰色を呈し、白雲母、黄鉄鉱の付着が認められる。また、割れ目沿いおよび潜在割れ目沿いに脱色が認められる。	82.13	83.59	82.13~83.59m, 上位と比べて割れ目が少ない。傾斜40~50° の割れ目が分布する。割れ目面は黒白~オリーブ灰色を呈し、白雲母、黄鉄鉱の付着が認められる。また、割れ目沿いおよび潜在割れ目沿いに脱色が認められる。	記事欄以外から読み取れるコアの形状の情報は記載しない
368	-	-	-	傾斜40°、幅2mmの石英脈を挟む	82.33	82.33	82.33m, 82.36m, 傾斜40° で幅1~2mmの石英脈を挟む。	記事内容が同じであるため、82.36mの記事を含めて記載した
369	-	-	-	傾斜40°、幅1~2mmの石英脈を挟む	82.36	82.36	-	上記で求め書きしたため記載しない
370	82.88	83.03	∠30~40° の割れ目が密集し、割れ目沿いの一部で細片化する。又、白雲母、黄鉄鉱の付着が目立つ。	-	82.88	83.03	82.88~83.03m, 傾斜30~40° の割れ目が密集し、割れ目沿いの一部で細片化する。白雲母、黄鉄鉱の付着が目立つ。	-
371	82.88	83.03	(割れ目状態欄)βランク	(割れ目状態欄)βランク	82.88	83.03	(割れ目状態欄)βランク	-
372	83.03	83.59	(コアの形状欄)Ⅲランク	(コアの形状欄)Ⅲランク	83.03	83.59	(コアの形状欄)Ⅲランク	-
373	83.59	83.88	(コアの形状欄)Ⅳランク (割れ目状態欄)βランク	(コアの形状欄)Ⅳランク (割れ目状態欄)βランク	83.59	83.88	(コアの形状欄)Ⅳランク (割れ目状態欄)βランク	-
374	83.39	83.88	∠30~50° の割れ目が4~10cm間隔で発達し、不規則な高角潜在割れ目が分布する。上位と同様に割れ目沿いの脱色が認められるが、より明確に認識できる。	-	83.39	83.88	83.39~83.88m, 傾斜30~50° の割れ目が4~10cm間隔で発達し、不規則な高角潜在割れ目が分布する。上位と同様に割れ目沿いの脱色が認められるが、より明確に認識できる。	-
375	83.88	84.54	∠45° 程度の割れ目が10~20cm間隔で発達し、コアは柱状を呈する。コアは硬質である。	-	83.88	84.54	83.88~84.54m, 上位より割れ目が少なく、傾斜45° の割れ目を主とする。	記事欄以外から読み取れる硬さやコアの形状の情報は記載しない
376	84.16	84.45	84.16~84.45mには、∠70° 以上の高角割れ目が認められるが、連続性悪く消失する。	84.16~84.45mには、∠70° 以上の高角割れ目が認められるが、連続性悪く消失する。	84.16	84.45	84.16~84.45m, 傾斜70° 以上の高角割れ目が認められるが、連続性悪い。消失する。	-
377	84.54	84.54	∠45° 割れ目面に結晶物(石英?)の微晶が晶出する。	∠45° 割れ目面に柱状の結晶物(石英?)の微晶が晶出する。	84.54	84.54	84.54m, 傾斜45° の割れ目面に柱状の石英の微晶が晶出する。	-
378	84.54	84.83	(風化欄)αランク (割れ目状態欄)βランク	(風化欄)βランク (割れ目状態欄)βランク	84.54	84.83	(風化欄)βランク (割れ目状態欄)βランク	-
379	84.54	84.03	割れ目間隔狭くなり、割れ目沿いの岩質変化(細片、細粒化)が目立つ。	-	84.54	84.03	84.54~85.14m, 割れ目が多くなり、割れ目沿いに細片~細粒化する。	-
380	82.83	82.83	∠40° 割れ目にフィルム~巾1mm方解石細脈伴う。	∠40° 割れ目にフィルム~幅1mm方解石細脈伴う。	84.83	84.83	84.83m, 傾斜40° の割れ目にフィルム~幅1mmの方解石脈を伴う。	-
381	84.83	85.06	割れ目間隔1~2cm程度と密になり、上下位と比べて変質進行し、コアはやや軟質となる。	-	84.83	85.06	84.83~85.06m, 割れ目間隔1~2cm程度と密になり、上下位と比べて変質が進み、やや軟質となる。	-
382	-	-	-	傾斜45°、幅25mm程度で変質が進み、灰白色粘土が割れ目状に分布する。	84.91	84.94	84.91~84.94m, 傾斜45° で幅25mm程度で変質し、灰白色粘土が割れ目状に分布する。	-
383	85.06	89.74	∠30~40° の割れ目が5~30cm間隔で発達し、コアは柱状を主とする。	∠30~40° の割れ目が5~30cm間隔で発達し、コアは柱状を主とする。	85.06	89.74	85.06~89.74m, 傾斜30~40° の割れ目が5~30cm間隔で分布し、長柱状を主体とする。	-
384	85.14	85.82	(コアの形状欄)Ⅲランク	(コアの形状欄)Ⅲランク	85.14	85.82	(コアの形状欄)Ⅲランク	-
385	85.14	85.04	割れ目面の変質は認められない。	-	85.14	85.04	85.14~85.04m, 割れ目面の変質は認められない。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名: H24-B14-2

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)			
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を本書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を本書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事				
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
385	85.28	85.28	巾1.5mm、 $\angle 35^\circ$ 、石英脈	85.28	85.28	幅1.6mm、 $\angle 36^\circ$ 、石英脈を挟む	85.28	85.28	05.28m、傾斜 35° で幅1.5mmの石英脈を挟む。	
387	85.59	86.28	$\angle 60\sim 70^\circ$ の密着割れ目が発達し、それに沿って脱色する。一部は開口(分離)、細片化を伴う。	-	-	-	85.59	86.28	85.59~86.28m、傾斜 $60\sim 70^\circ$ の密着割れ目が発達し、それに沿って脱色する。一部は開口し、細片化を伴う。	
388	85.82	88.31	(岩級区分欄)C1M	85.82	88.31	(岩級区分欄)G1H	85.82	88.31	(岩級区分欄)G1H	
389	85.96	88.31	(割れ目状態欄)Cランク	85.96	88.31	(割れ目状態欄)Bランク	85.96	88.31	(割れ目状態欄)Bランク	
390	85.96	87.52	高角度($\angle 40^\circ$ 以上)に高曲する割れ目が複数分布する。割れ目沿いに細片・細粒化し、86.58~87.00mは、岩質劣化部を伴う。	-	-	-	85.96	87.52	85.96~87.52m、傾斜 60° 以上で高曲する割れ目が複数分布する。割れ目沿いに細片化~細粒化する。86.58~87.00m間は岩質劣化部を伴う。	
391	86.27	87.61	(コアの形状欄)IIランク	86.27	87.61	(コアの形状欄)IIランク	86.27	87.61	(コアの形状欄)IIランク	
392	86.50	86.58	また、86.30~86.58m間は、割れ目面に柱状の種質鉱物(石英)が晶出する。	-	-	-	86.50	86.58	86.50~86.58m、高角度割れ目面に柱状の石英が晶出する。	
393	87.61	-	87.61m以深、 $\angle 40\sim 60^\circ$ の割れ目が多くなる。	-	-	-	87.61	-	87.61m以深、傾斜 $40\sim 60^\circ$ の割れ目が多くなる。	
394	87.61	88.31	$\angle 40\sim 60^\circ$ の割れ目および潜在割れ目が分布し、それらに沿って脱色する。割れ目面はオリーブ灰色を帯びる。	-	-	-	87.61	88.31	87.61~88.31m、傾斜 $40\sim 60^\circ$ の割れ目や潜在割れ目が分布し、それらに沿って脱色する。割れ目面はオリーブ灰色を帯びる。	
395	87.73	88.31	(コアの形状欄)IVランク	87.73	88.31	(コアの形状欄)IIIランク	87.73	88.31	(コアの形状欄)IIIランク	
396	87.73	87.73	$\angle 40^\circ$ 割れ目に黄鉄鉱が認められる。	-	-	-	87.73	87.73	87.73m、傾斜 40° の割れ目に黄鉄鉱が晶出する。	
397	88.22	88.22	$\angle 43^\circ$ 割れ目は暗オリーブ灰色化し、柱状の石英が晶出する。	-	-	-	88.22	88.22	88.22m、傾斜 43° の割れ目は暗オリーブ灰色を呈し、柱状の石英が晶出する。	
398	88.22	88.30	微細な有色鉱物を多く含む。コアは暗色を帯びる。	-	-	-	88.22	88.30	88.22~88.30m、微細な有色鉱物を多く含む。コアは暗色を帯びる。	
399	88.31	88.75	(コアの形状欄)IIIランク	88.31	88.75	(コアの形状欄)IIランク	88.31	88.75	(コアの形状欄)IIランク	
400	88.90	89.09	$\angle 45^\circ$ 程度の割れ目が0.5~3cm間隔で発達し、一部割れ目沿いに細片化する。わずかに脱色が認められるが、岩質は硬質である。	-	-	-	88.90	89.09	88.90~89.09m、傾斜 45° 程度の割れ目が0.5~3cm間隔で発達し、一部割れ目沿いに細片化する。わずかに脱色が認められる。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
401	88.90	89.74	(岩級区分欄)CM	88.90	89.74	(岩級区分欄)G1H	88.90	89.74	(岩級区分欄)G1H	
402	88.90	94.10	(割れ目状態欄)Cランク	88.90	94.10	(割れ目状態欄)Bランク	88.90	94.10	(割れ目状態欄)Bランク	
403	89.09	89.41	(コアの形状欄)IIIランク	89.09	89.41	(コアの形状欄)IIランク	89.09	89.41	(コアの形状欄)IIランク	
404	89.09	89.09	$\angle 43^\circ$ 割れ目は緑灰色化し、石英粒($\phi 0.3\sim 0.5mm$)が晶出する。	-	-	-	89.09	89.09	89.09m、89.42m、89.55m、傾斜 $43\sim 50^\circ$ の割れ目に径0.3~0.5mmの石英が晶出する。割れ目面は緑灰色化する。	記事内容がほぼ同じであるため、89.42m、89.55mの記事を含めて転載した
405	89.42	89.42	$\angle 50^\circ$ 、割れ目に石英晶出する。	-	-	-	-	-	-	上記でまとめ書きしたため記載しない
406	89.55	89.55	$\angle 46^\circ$ 、割れ目に石英晶出する。	-	-	-	-	-	-	上記でまとめ書きしたため記載しない
407	89.55	89.74	(コアの形状欄)IIランク	89.55	89.74	(コアの形状欄)IIランク	89.55	89.74	(コアの形状欄)IIランク	
408	89.74	92.63	(コアの硬さ欄)Cランク	89.74	92.63	(コアの硬さ欄)Bランク	89.74	92.63	(コアの硬さ欄)Bランク	
409	89.74	92.63	(風化欄)Aランク (岩級区分欄)CL	89.74	92.63	(風化欄)Bランク (岩級区分欄)CM	89.74	92.63	(風化欄)Bランク (岩級区分欄)CM	
410	89.74	-	$\angle 35\sim 55^\circ$ の割れ目が2~6cm間隔で発達し、コアは片状を呈する。	89.74	90.56	$\angle 33\sim 55^\circ$ の割れ目が2~6cm間隔で発達し、コアは一部で細片状を呈する。	89.74	90.56	89.74~90.56m、傾斜 $33\sim 55^\circ$ の割れ目が2~6cm間隔で発達し、コアは一部で細片状を呈する。	
411	90.08	90.56	(コアの形状欄)Vランク	90.08	90.56	(コアの形状欄)IVランク	90.08	90.56	(コアの形状欄)IVランク	